



## 【我がまちの歴史】第1回 魚見ヶ原遺跡 丘の上なのに魚見？

シリーズ

高台にある魚見町、なぜ魚の文字が付いているのか不思議に思われた方もおられるのでは？

その謎は、谷山観光協会発行の『谷山の歴史と文化財 改訂版』によると、以下のように記されています。

鹿児島湾を見下ろせる標高60mのシラス台地に位置し、縄文時代・弥生時代・古墳時代の複合遺跡である。

今から2400年前の弥生時代前期末の遺跡では、朝鮮半島から伝わった松菊里型住居しょうきりかたと呼ばれる特殊な竪穴住居跡が見つかった。直径は3～3.6m、深さが15～25cm、平面が円形を示すものである。土器では、甕かめ・壺たかつき・高坏たかつきなどがある。石器では、打製石鏃※1・磨製石鏃たせいせきぞく・磨製石鏃ませいせきぞく・石匙いしさし・石錐いしきり・磨製石斧ませいせきふ・打製石斧たせいせきふ・石包丁いしほうちょう・磨石すりいし・石皿などがあり、石包丁には朝鮮半島の影響を受けて作られた特殊な物もあった。

このほかに軽石加工品や鉄片、炭化した種子、貝殻などの自然遺物も出土している。

古墳時代以降のものとしては、土師器はじき・須恵器すえき・青磁・錢貨どすい・土錘などが出土している。土錘は粘土で作られたおもりおもりで、魚を捕る網に取り付けられた。遺跡のあるシラス台地一帯は、魚見ヶ原と呼ばれている。地名の由来は鹿児島湾に大網が敷かれ、魚群が網に入ると白波が立つので、台地の先端に設けられた櫓の上から旗を振って浜の漁師に知らせた。この魚を見張ることから、魚見ヶ原の地名はついたという。地名由来は、古墳時代の土錘と結びついてくるようだ。

この遺跡は、県内では少ない弥生時代前期末を中心とした集落跡にある。

東谷山小中学生の皆さん、二千年前の遺跡で勉強する気持ちはいかがですか？

※1.小学生のみなさん、「磨製石器のつくり方」を自由研究のテーマにどうですか。